

## 環境新聞ブックレットシリーズ◎10「廃棄物処理法のあるべき姿を考える」



改正廃棄物処理法は、依然として法律の問題点や改善すべき点を指摘する声は多くあります。アミタ 堀口による環境新聞連載「廃棄物処理法のあるべき姿を考える」では、2011年2月から約1年半にわたり、廃棄物処理法のあるべき姿、改正案についての提言を行ってきました。「環境新聞ブックレット」はこの連載をまとめたもので、排出事業者、処理業者そして行政と、廃棄物処理にかかわる全ての人に興味深い内容となっています。

**【著者】** 堀口昌澄

(アミタ持続可能経済研究所環ソリューション室主席コンサルタント)

**【内容】** 環境新聞連載「廃棄物処理法のあるべき姿を考える」

1 (2011・2) ～18 (2012・7) および書き下ろし1編

**【体裁】** A5判、本文約70ページ

**【定価】** 840円 (税込み・送料別)

### 【目次】

1. 廃棄物収集運搬業の許可制度 — 静脈物流にも規制緩和を—
2. 産業廃棄物の輸出制度改革 — 循環資源として戦略的に促進—
3. 区分と種類の問題を考える — 区分の抜本改正で資源循環促進を—
4. 契約書の作成義務の意味を考える — 記載事項の見直し必要—
5. マニフェストの使い勝手と効果を考える — E票廃止も検討すべき—
6. ITで廃棄物管理業務の高度化を — ユーザー目線が必要—
7. 「代表排出事業者」でマニフェストの合理化を — 重複する業務を集約—
8. 積み替え保管を処分業に — 法改正を契機に検討を—
9. 宅配便で小型架電の回収を — 課題解決へ 民間の創意工夫を引き出せ—
10. 廃棄物処理法の許可不要業種を — 中小型施設 活用に弾み—
11. 収集運搬業の許可手続き緩和を — 運送業から参入促せ—
12. 廃棄物処理法に違反切符制度を — 排出事業者の自覚促せ—
13. 区分・種類分けの合理化を — “三方一両得”を実現—
14. 建設工事の範囲見直しを — 「管理権限」で排出責任線引き—
15. グループ会社内での処理委託 — 許可手続きを不要に—
16. 電子マニ普及と業界優良化 — 不法投棄の抑止は困難—
17. 難解な廃棄物処理法の条文 — わかりやすく整理が必要—
18. 抜本改正について — ヒアリング対象拡大を—
19. <特別書き下ろし>輸入品にも一般廃棄物処理コストの負担を